

TECHNICAL DATA

種 類	ポリマーセメント系断面修復材
製品名	ソルトストップ断面修復材 S P

第6版 改訂日：2024年 11月 1日



菊水化学工業株式会社

標準施工仕様書

種類	ポリマーセメント系断面修復材
製品名	ソルトストップ断面修復材 S P
素地	コンクリート・モルタル等の欠損部充填補修用
部位	コンクリート・P Cパネル・セメントモルタル等

1. 工程表

工程	材料・調合	施工用具・条件	塗回数	間隔時間 (hr)	所要量
吸水調整	C R - A E プライマー 主 材 : 3kg	ウールローラー 水性刷毛等	1	2 h 以上	20~30㎡/3kg容器 0.10~0.15kg/㎡
断面修復	ソルトストップ 断面修復材 S P 主 材 : 25kg 清 水 : 3.2~4.2L	金鋺 吹付用圧送機	1 以上	16 h 以上 工程内 3 h 以上	約21.2kg/㎡ (約10mm厚、混練水を含む) 約1.35㎡ (約10mm厚) 混練比重 : 約2.12kg/L 練り上り容量 : 約13.5 L 1㎡あたり75袋 (主材1,875kg 清水270 L)

● 施工上の要点

- (1) 欠損部の脆弱部はウォータージェット、電動ピック等の所定の方法により除去して下さい。
- (2) 鉄筋が露出している場合は、スクレーパー、ワイヤーブラシ、研磨紙等により錆を除去し、専用材料で防錆処理を施して下さい。
- (3) 下地の吸水が激しい場合、必要に応じて専用の吸水調整材 (C R - A E プライマー) を塗布し、乾燥させてください。(乾燥時間目安 : 20℃で2時間以上)
- (4) 調合は、上記比率で高速ミキサー又はモルタルミキサー等により、まます粉ができないように3分以上混練し、清水 (上記範囲内) で適性軟度に調整してください。
- (5) 金ごてによる塗付けは3~5mm程度を下地によく馴染ませるように塗り付け、追っかけで所定の厚みに塗付けてください。1回の最大塗り厚は30mmです。それ以上厚塗りする場合は、刷毛目や櫛目を施し硬化状態を見ながら塗り重ねして下さい。
- (6) モルタルポンプによる吹付けを行う場合、1度に施工可能な厚さは30mm (壁面)、20mm (天井面) です。これを超える場合は、数回に分けて施工して下さい。
- (7) 塗り重ねが翌日以降になる場合、前工程の表面を左官刷毛等で清掃した後、必要に応じて水湿し、又は専用の吸水調整材を塗布し、乾燥後に材料を所定の厚みで塗り付けて下さい。
- (8) 調合後の可使時間は、60分以内 (20℃) です。また、材料の練り戻しや練り足しは絶対に行わないようにして下さい。
- (9) 大面積での施工は、アンカーピン、ステンレス線、メッシュ等の併用をご検討下さい。

●注意事項

- (1) 気温が5℃以下の場合は施工を避けて下さい。
- (2) 強風及び降雨、降雪の場合又はそれらが予想される場合は施工を避けて下さい。
- (3) 湿気や水掛かりに注意して保管して下さい。

組 成 表

種 類	ポリマーセメント系断面修復材		
製 品 名	ソルトストップ断面修復材 S P		
荷 姿	(吸水調整材) C R - A E プライマー	NET 3kg/ポリ容器入	
	(断面修復材) ソルトストップ断面修復材 S P	NET 25kg/袋入	

組 成

吸水調整材 : C R - A E プライマー

内 容	重 量 (%)
カチオン・アクリル樹脂エマルション	11~12
清水	88~89
計	100

断面修復材 : ソルトストップ断面修復材 S P

内 容	重 量 (%)
無機質結合材 (ポルトランドセメントなど)	30~40
骨材 (珪砂、炭酸カルシウムなど)	50~60
再乳化形粉末樹脂 (アクリル系)	1~3
その他添加剤 (有機短繊維、収縮低減剤など)	5~7
計	100

性能試験成績書

種 類	ポリマーセメント系断面修復材			
製 品 名	ソルトストップ断面修復材 S P			
供試材料	吸水調整材：C R - A E プライマー 断面修復材：ソルトストップ断面修復材 S P			
試験方法	東日本・中日本・西日本高速道路株式会社 構造物施工管理要領（令和5年10月） 左官工法による断面修復の性能照査（N E X C O規格）			
試験項目	試験条件	試験方法	基準値	結 果
硬化時間	—	JIS A 5201	断面修復材の固化時間は1時間以上であること	4.5時間
断面修復材の外観 （塗膜無し）	温冷繰り返し 試験後	JIS A 6909	断面修復材は均一で、われ、はがれ、ふくれがないこと	異常無し
硬化収縮性	—	JIS A 1129-3	断面修復材の硬化収縮率は、0.05%以下であること 硬化に伴う発熱により反りかえりがないこと	硬化収縮率 ：0.04% 異常無し
熱膨張性	硬化収縮性後	JIS K 6911	断面修復材の熱膨張性数は、 $2.0 \times 10^{-5}/^{\circ}\text{C}$ 以上であること	$0.60 \times 10^{-5}/^{\circ}\text{C}$
コンクリートとの 付着性	湿潤時	JIS A 6909	コンクリートと断面修復材との付着強度は、 1.5 N/mm^2 以上であること	1.6 N/mm^2
	耐アルカリ性 試験後			2.1 N/mm^2
	温冷繰り返し 試験後			1.8 N/mm^2
圧縮強度	—	JIS R 5201	補修設計で定めた設計基準強度以上であること	56.7 N/mm^2
※ 調合割合 粉体：水＝25.3.6（重量比） ※ 上記数値は代表値であり、製品の数値等を保証するものではありません。 あらかじめご了承ください —以下余白—				

一般的な注意事項

《下 地》

- 下地がコンクリート、モルタルの場合は、下地の乾燥を十分に行ない、含水率 10%以下、pH10以下で施工してください。
- 大きな動きが予想される部位への塗装は、塗膜がひび割れまたは剥離する可能性があります。

《環 境》

- 夏期など、特に気温が高い場合や下地の吸い込みが著しい場合はドライアウトの原因となります。適当な水湿し、または下塗りを行ってください。
- 塗膜の乾燥過程で水分の影響（高湿度、結露、降雨等）を受けた場合、塗膜表面が白化することがあります。施工場所の気温が5℃以下、湿度85%以上又は結露の発生が考えられるなど水分の影響を受ける可能性がある場合は、施工を行わないでください。
- 外部施工で降雨、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を行わないでください。
- 絶えず結露が発生するような部位、場所への塗装はしないでください。
- 直射日光下で施工する場合は、適切な養生をし、下地表面の急激な温度上昇を防止してください。
- 施工時は換気を十分に行ってください。

《施 工》

- 施工時は飛散防止として養生は十分に行ってください。
- 施工面とその周辺（車や付帯設備を含む）や床などに汚染や損傷を与えないように注意し、必要に応じて、あらかじめ施工箇所周辺に適切な養生を行ってください。
- 乾燥途中で降雨等が予想される場合は、シート養生を行うなどして、塗膜表面に水分が当たらないようにしてください。
- 各種施工仕様に記載の所要量及び間隔時間を守って施工し、適正な塗付量を確保してください。
- 表面に白華が発生した場合はブラシ等により除去してから次工程の作業を行ってください。
- 施工箇所が高温である場合は、製品をできるだけ気温の低い所に保管し、あらかじめ冷却した水で練り混ぜてください。
- 使用後は塗装器具を十分に洗浄してください。
- 溶剤形の下塗を取り扱う場合には、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守してください。
- 磁器タイル洗浄用の酸が表面に付着すると変色したり、溶解することがあります。磁器タイルの洗浄用の酸が塗装面に付着する可能性がある場合は、必ず施工面のマスキングを行ってください。

《保 管》

- 直射日光下や屋外、0℃以下での保管はしないでください。
- 製品は、湿気に注意し、水がかりを避け、パレットの上に置き、なるべく乾燥した屋内に保管してください。

安全衛生上の注意事項

- 製品の取扱いについての一般的な注意事項の詳細はSDS(安全データシート：JEMSDS)を参照してください。
- 取扱い後は手洗い、うがいを十分に行なってください。
- 適切な保護手袋、保護眼鏡、防毒・防塵マスクなどを着用してください。
- 目に入った時は直ぐに水で洗い、速やかに医師の診断を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合は速やかに医師の診断を受けてください。
- 皮膚についた場合は、多量の水と石鹸で洗ってください。また、皮膚刺激または発疹が生じた場合は、診断を受けてください。
- 粉じん、蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合は、安静にし、必要に応じて医師の診断を受けてください。
- 火気、スパーク等の発火源があると、粉じん爆発の恐れがありますので、取り扱いには十分注意してください。
- 取扱い中は、粉じんがたたないように注意し、また、取扱い後は密閉した容器に保管してください。
- 缶の取手は手さげ専用です。ロープやフックで吊り下げると外れることがあります危険です。絶対に行わないでください。
- 子供の手の届かない所に保管してください。
- 塗料、塗装器具を洗浄した汚水はそのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処理してください。

* 本仕様書の内容は予告なしに変更することがあります。

施工に当たっては常に最新版の仕様書を参照し、適切な対策を取るようにしてください。